

【Datum ワークステーション】Pleiades Neo ファイルインポートと RPC オルソ補正

2025.10.22 OpenGIS

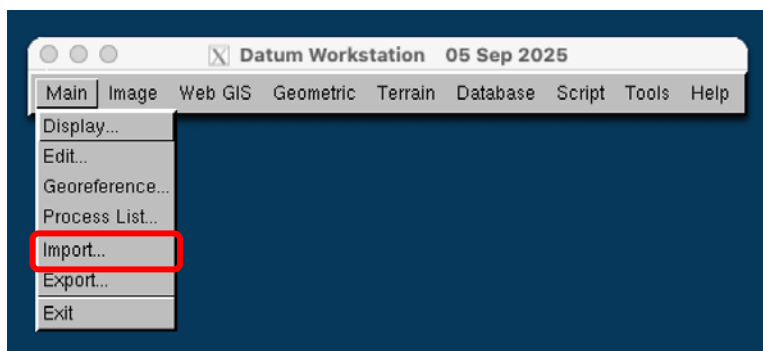
1. Pleiades Neo のデータインポート (Datum ワークステーション Version:25.9.26 で対応)

使用データ: Pleiades Neo サンプルデータ (DIMAP V2 フォーマット)

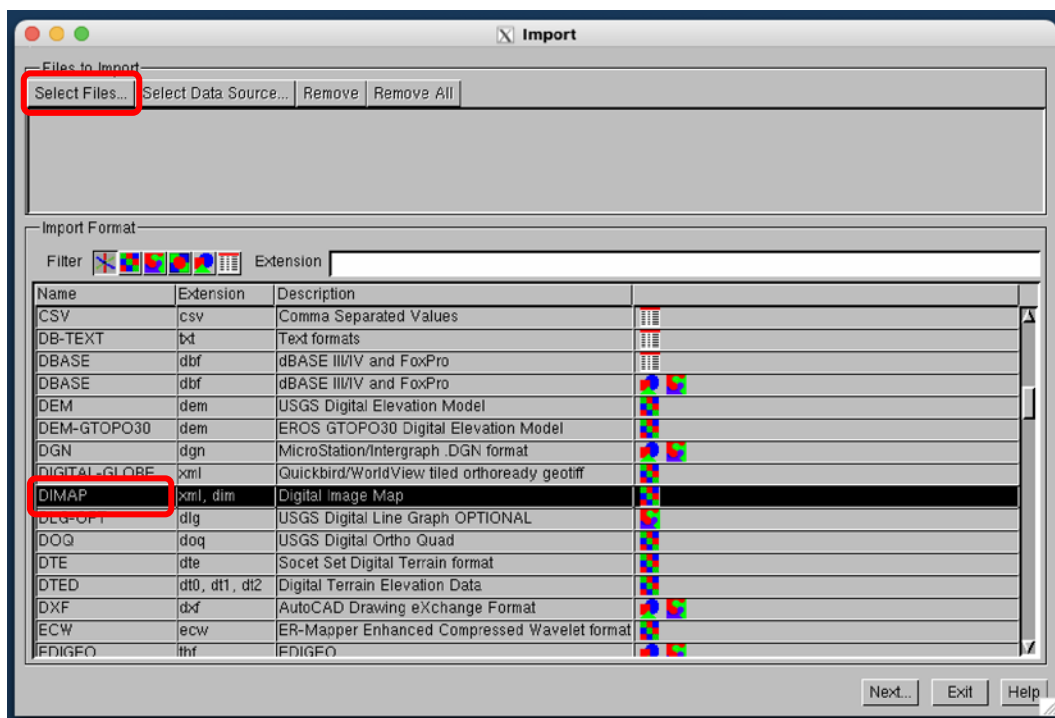
<https://earth.esa.int/eogateway/missions/pleiades-neo/sample-data>

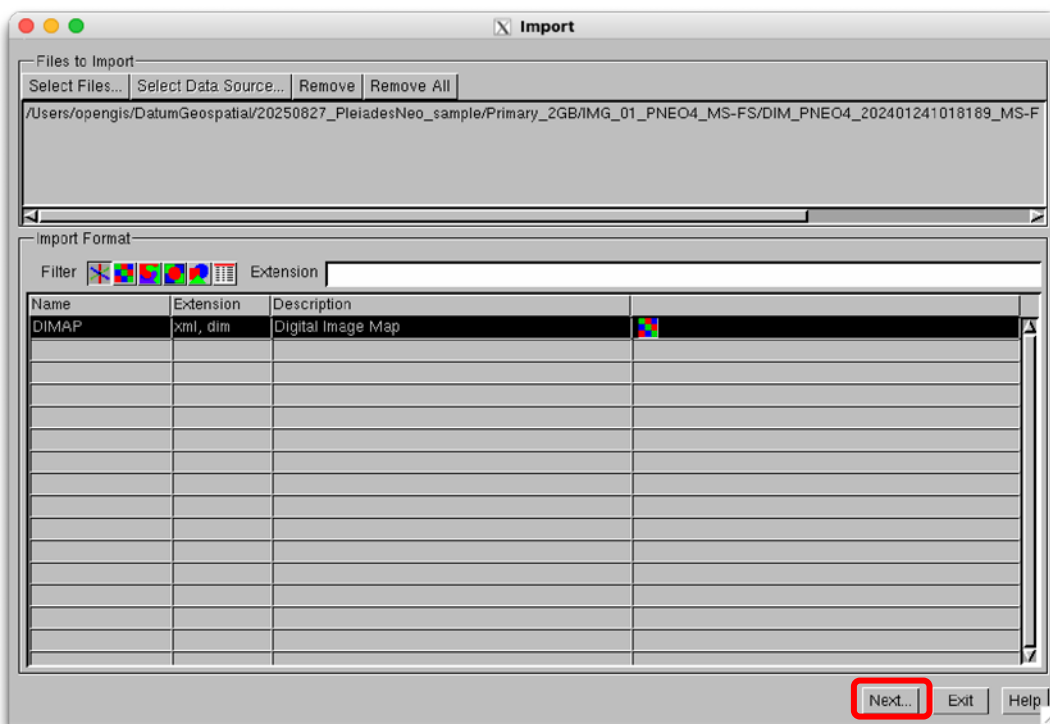
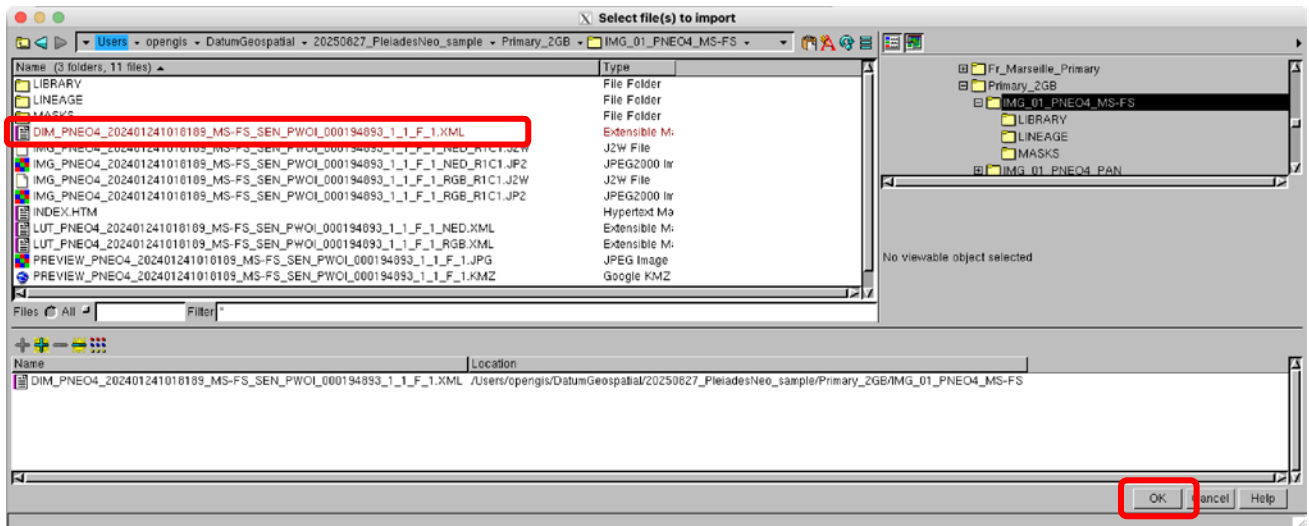
Primary product sample (2 GB)を使用しました。

[メイン(Main)]>[入力(Import)]

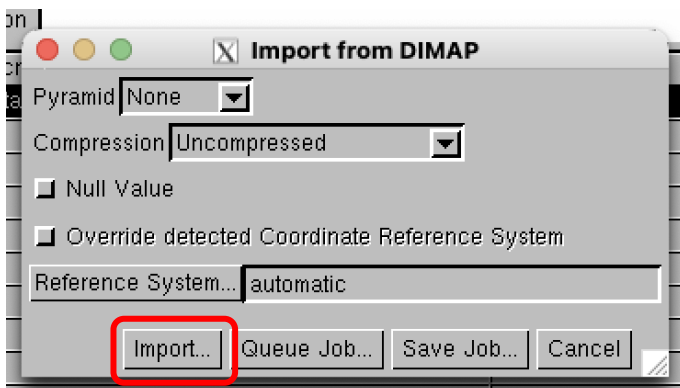


入力形式で”DIMAP”を選び、[ファイルの選択(Select Files)]より DIMAP ファイルを選択します。

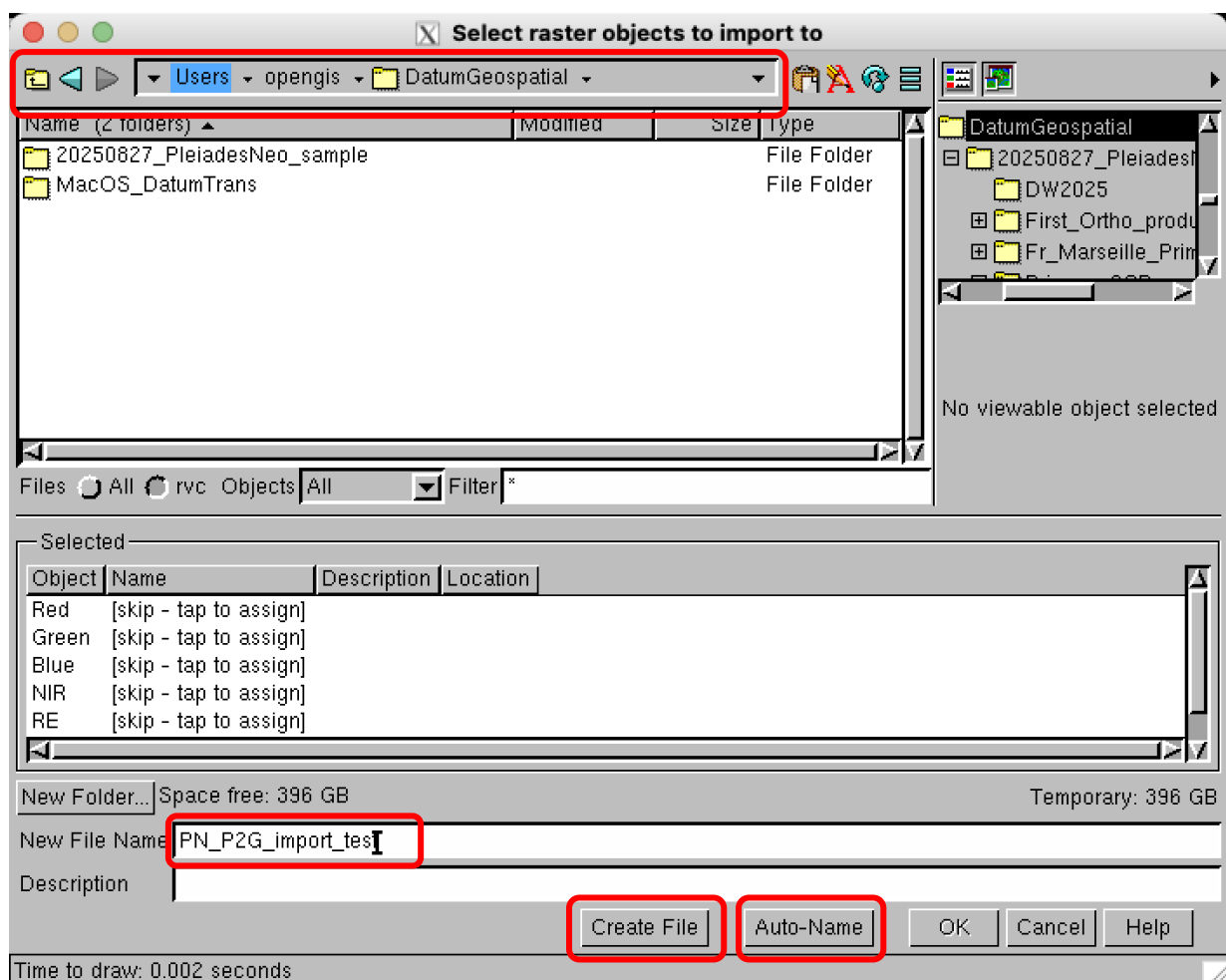




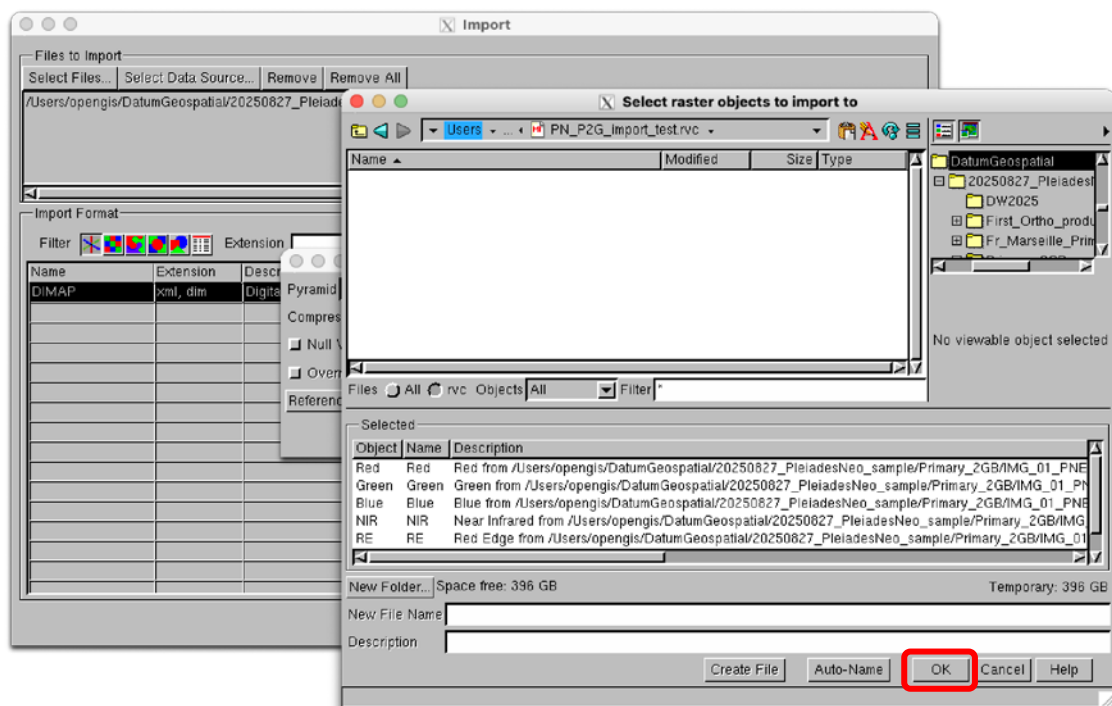
パラメータをセットして[入力(Import)]を選択します。



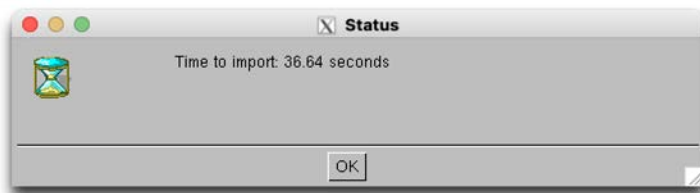
ファイルを保存するフォルダへ移動します。



新規ファイル名を入力し、[ファイルの作成(Create File)]、[名前の自動割り振り(Auto Name)]を選択します。オブジェクト名が自動的に入ります。
[OK]でインポート処理を開始します。



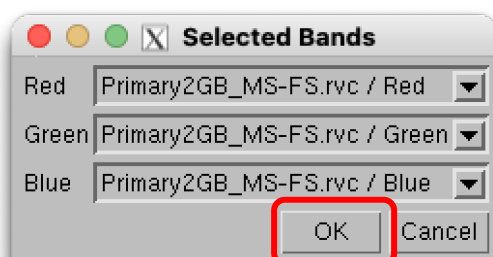
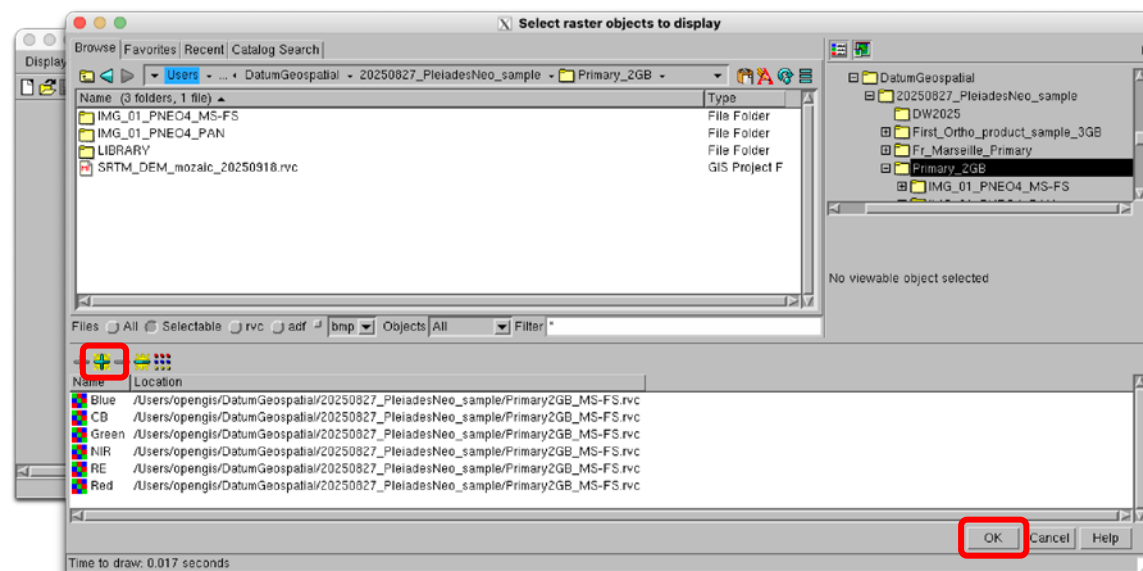
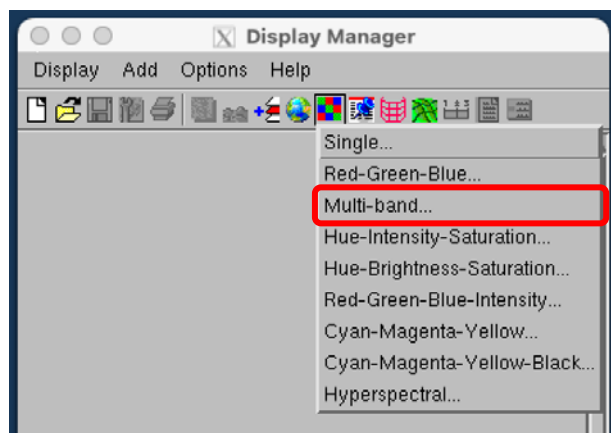
処理終了



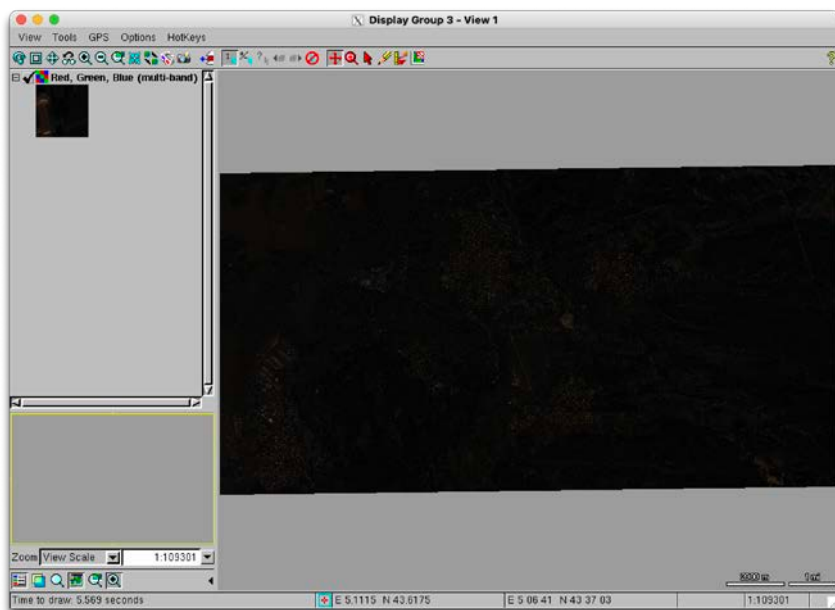
2. インポートデータの表示

[メイン(Main)]>[表示(Display)]

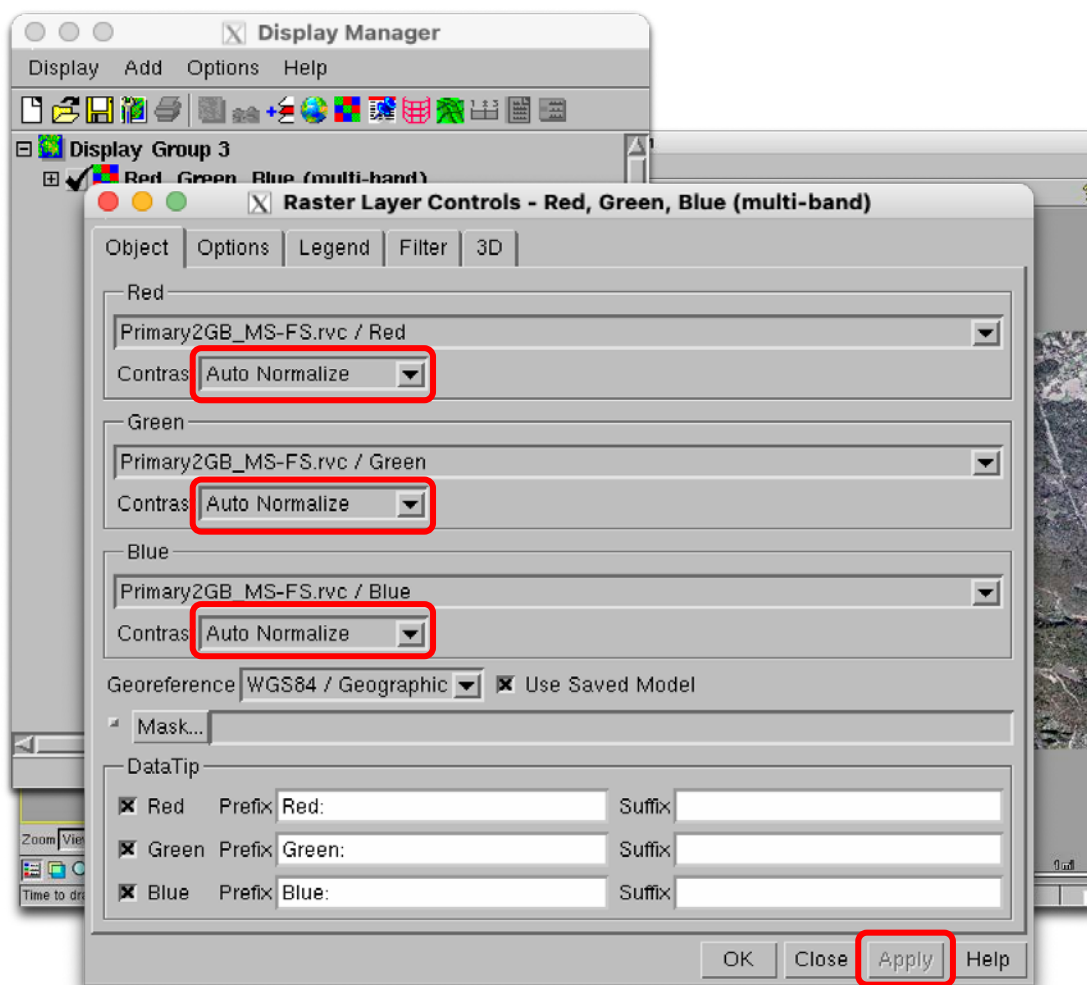
表示マネージャでラスタから[マルチバンド(Multi-Band)]を選択します。



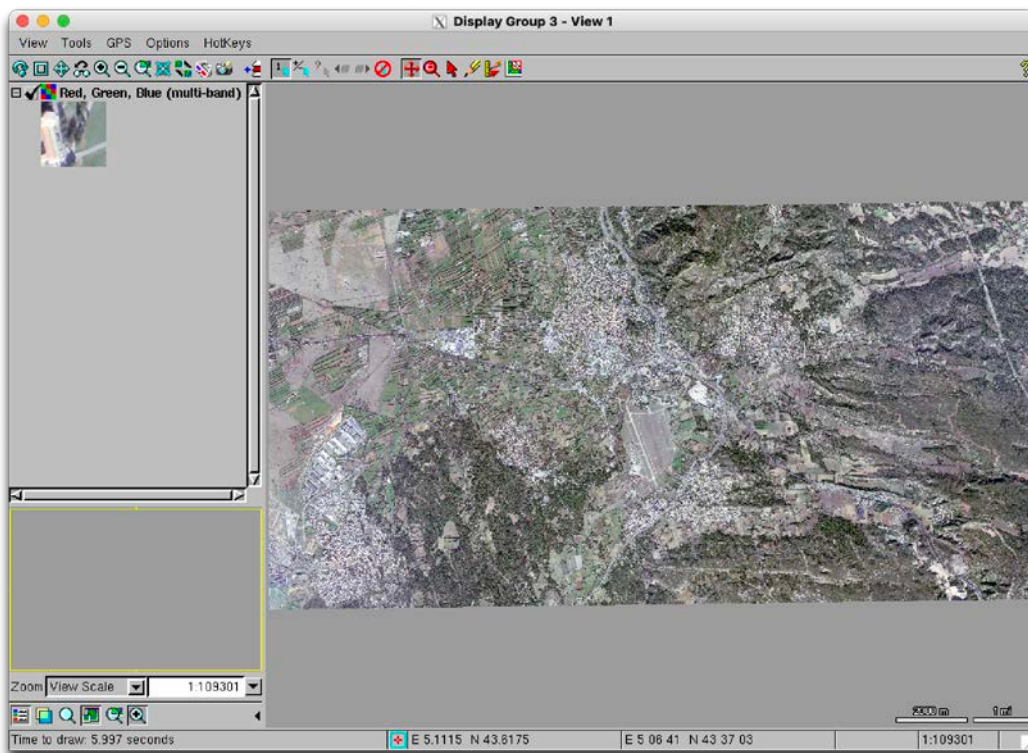
画像表示が真っ黒の表示の場合はコントラストを変更します。



マネージャのレイヤを選択し、右クリックメニューから[ラスタレイヤコントロール]画面を表示します。
[オブジェクト(Object)]タブで RGB のコントラストを” 自動正規化 (Auto Normalize)”に設定します。

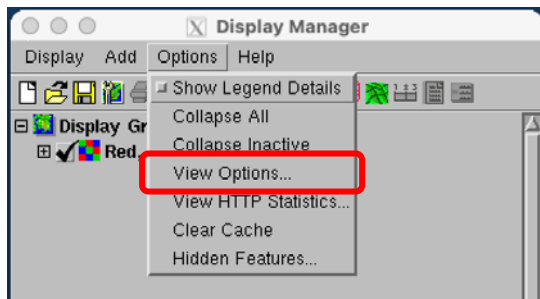


コントラスト変更後の表示

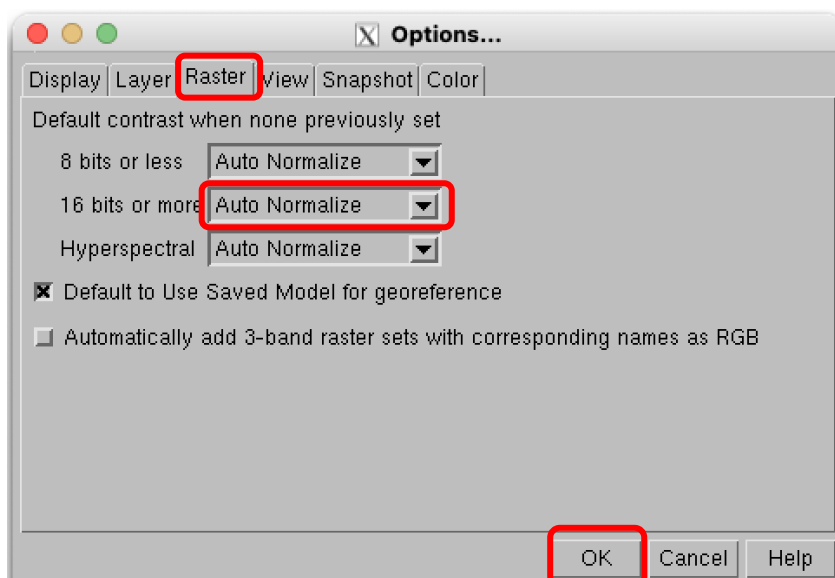


表示のデフォルト値も変更しておきます。

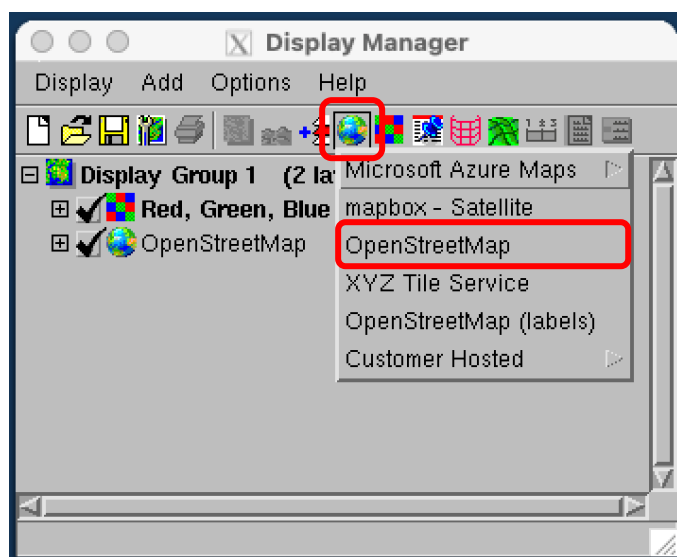
マネージャの[オプション(Options)]から[表示ウィンドウオプション(View Options)]を選択します。



ラスタタブのデフォルトのコントラストの 16 ビット画像を”自動正規化(Auto Normalize)”に指定します。

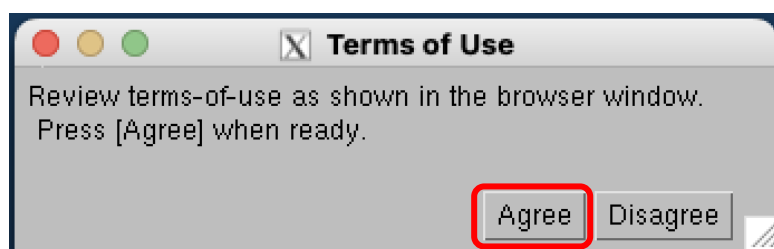


背景に OpenStreetMap を表示するには
マネージャの[Web レイヤの追加]のプルダウンより選択します。

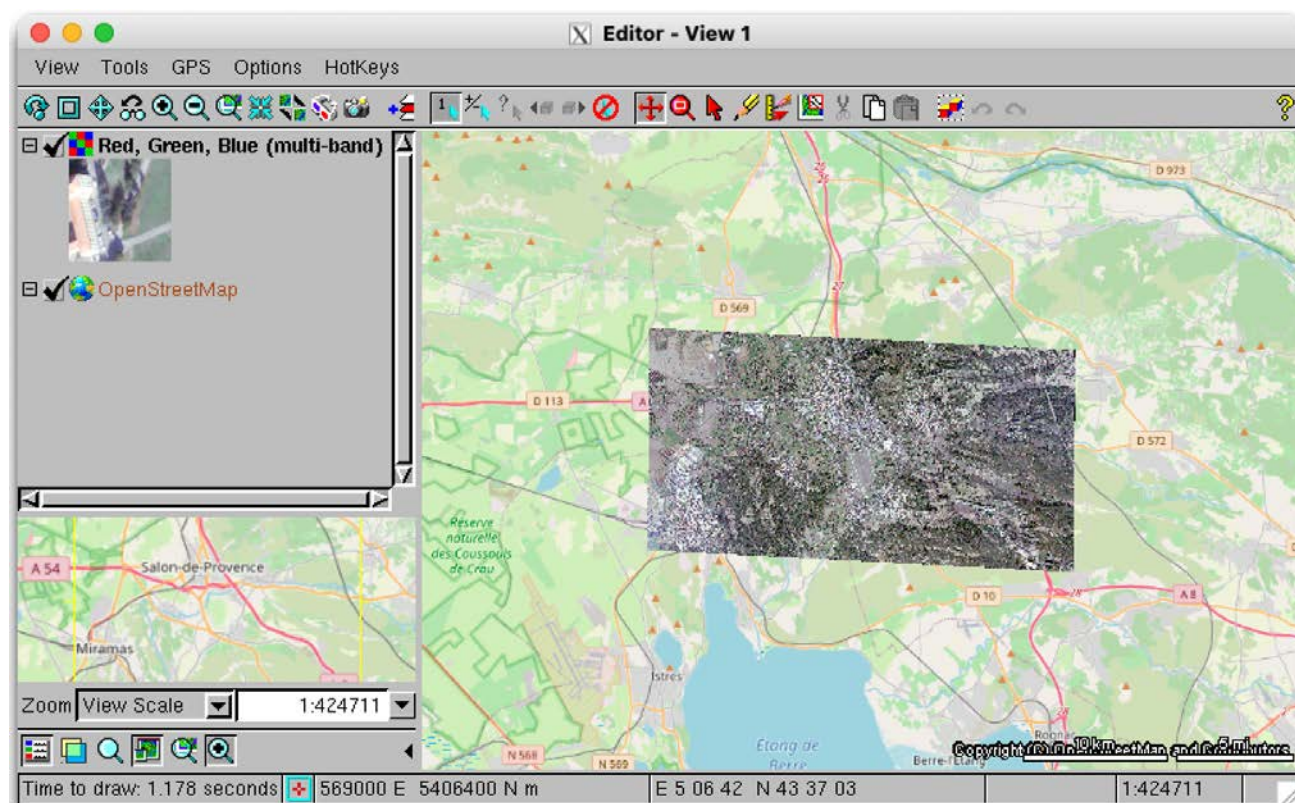


背景に地理院地図を表示するには、
[Customer Hosted] > [Maps by
Geospatial Information Authority of
Japan] の中から選択します。

初回使用時は利用規約への同意が求められます。



インポート画像と OpenStreetMap の表示



3. RPC オルソ補正

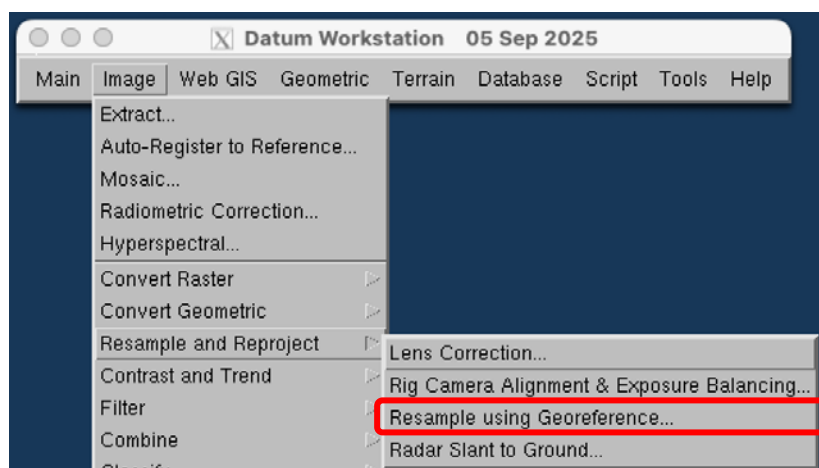
1で RVC にインポートしたプレアデス画像の RPC オルソ補正を行います。

他に

- ・ RVC にインポートした画像範囲をカバーする DEM データ
- ・ ジオイド値

が必要です。

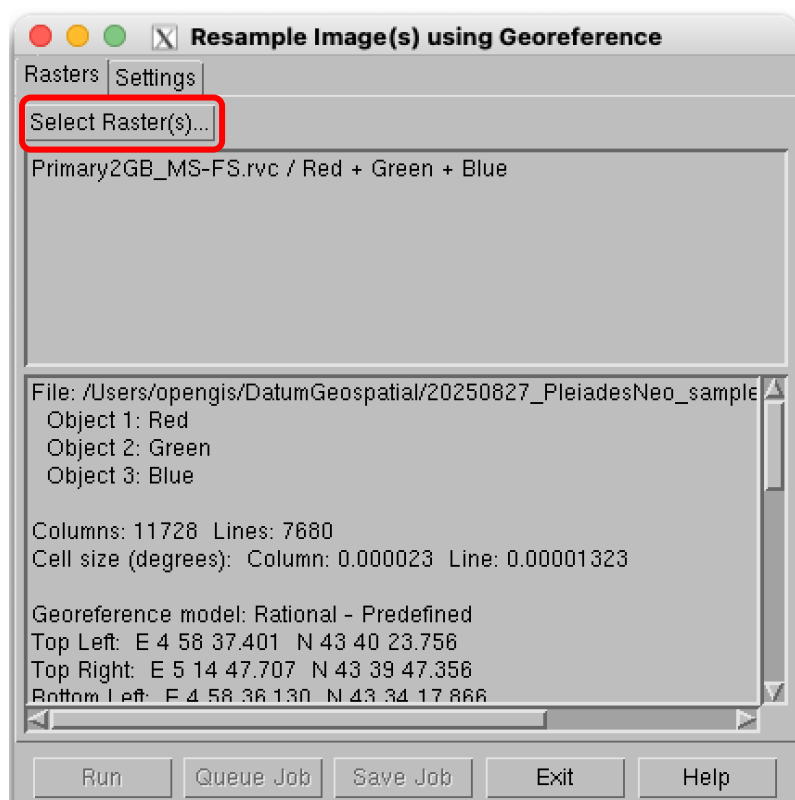
[画像]>[リサンプルとリプロジェクト]>[ジオリファレンス処理を使ったリサンプル]を選択します。



[ラスタ(複数)]タブで、[ラスタ(複数)を選択] を開きます。

インポートしたプレアデス画像の RGB を選択します。

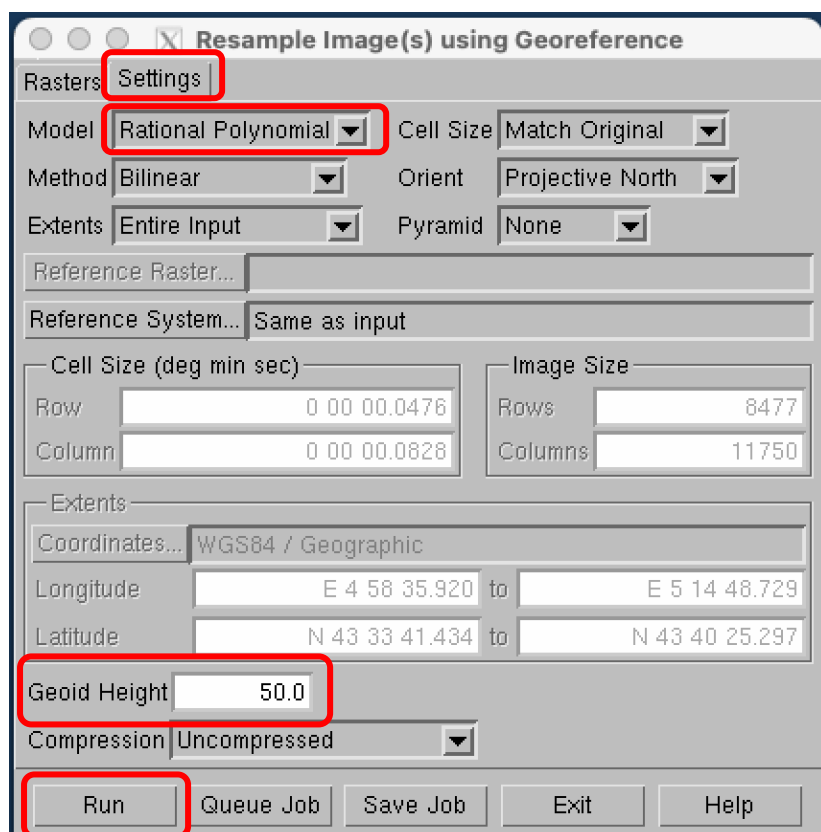
次に DEM ファイルのパスを聞かれますので指定します。



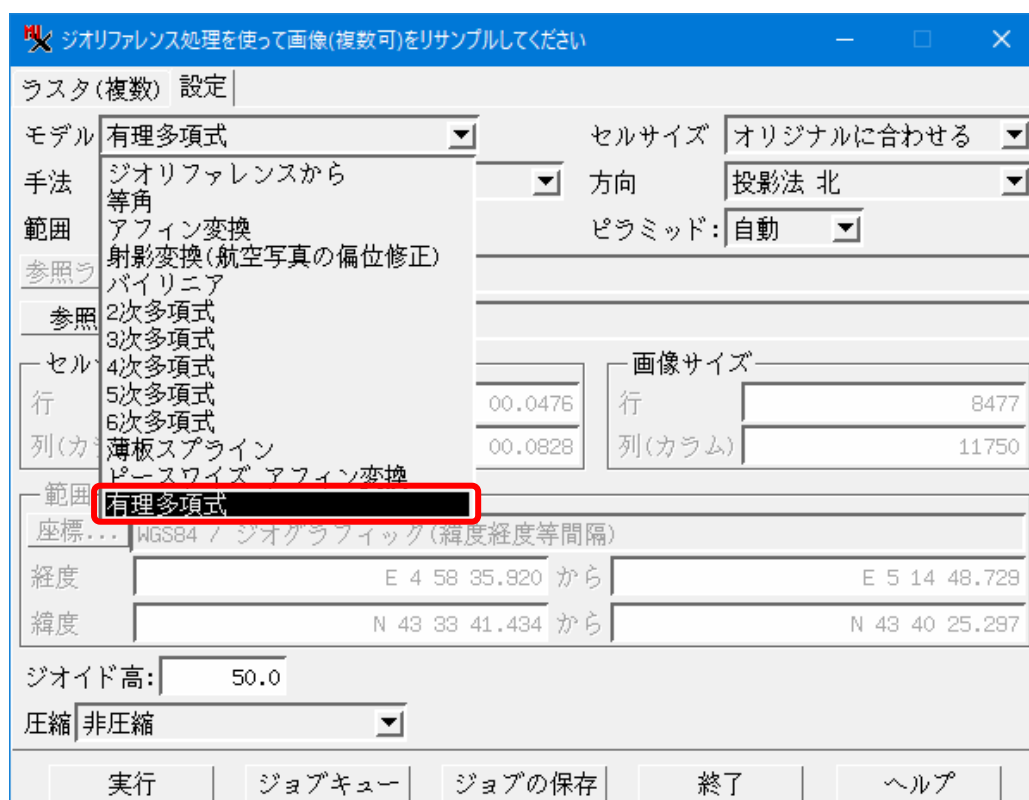
[設定(Settings)]タブを開きます。

モデルに”有理多項式 (Rational Polynomial)”を指定、セルサイズやジオイド高を指定して
[実行(Run)]します。

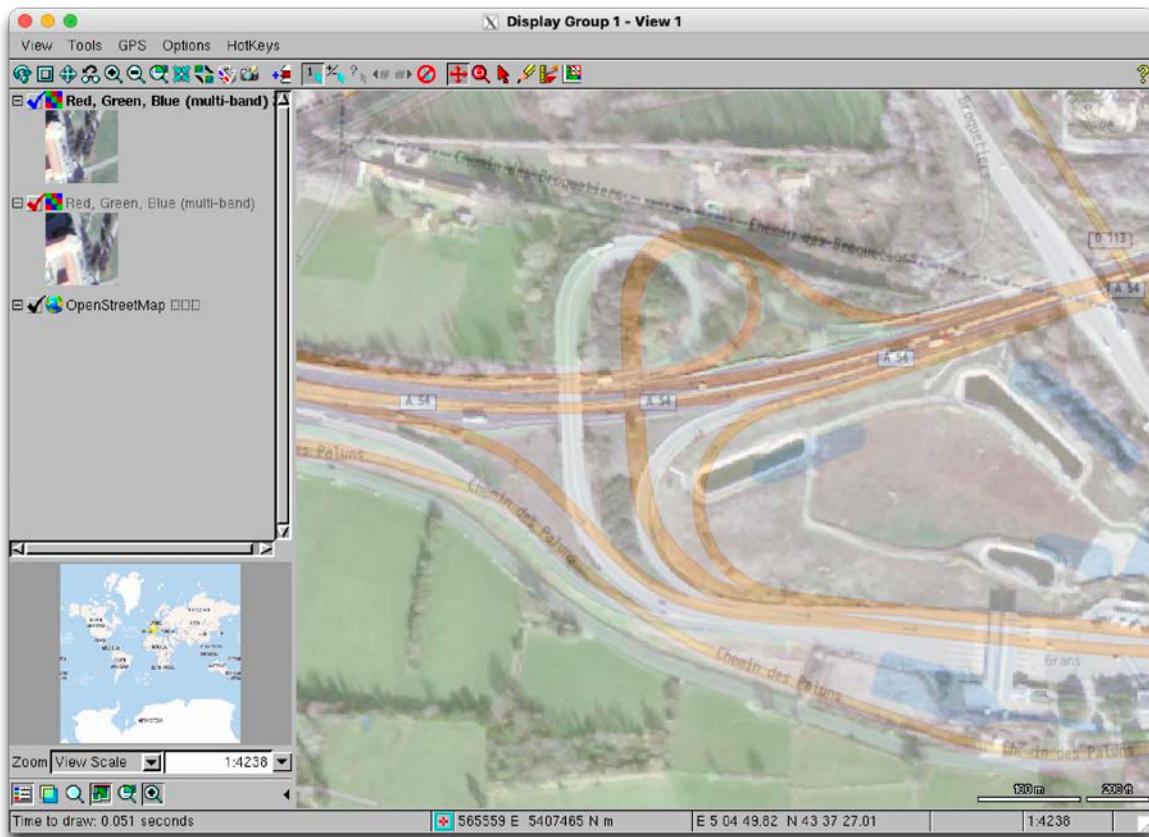
(macOS)



(Windows)



結果を表示。背景は Open Street Map
(RPC オルソ補正前)



(RPC オルソ補正後) 道路位置が移動している

